様式１

令和５年度　授業改善推進プラン（中学校・学年用）

第三中学校　　第２学年

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １　福生市学力・学習状況調査の結果 | | | | | | |
|  | 分類 | 意識調査の質問項目 | | | 学年 | 全国 |
| 学びに向かう力 | 感情の  コントロール | ８　家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う。 | | | ９３．０％ | ９３．７％ |
| 53　自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。 | | | ６０．６％ | ６７．６％ |
| 54　自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。 | | | ９４．４％ | ９３．０％ |
| 目標の達成 | 18　普段から「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることがある。 | | | ８０．３％ | ７４．５％ |
| 26　ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。 | | | ９３．０％ | ９１．６％ |
| 他者との協働 | 117　私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。 | | | ８５．９％ | ８９．０％ |
| 学力と関係が深い質問 | 43　調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる。 | | | ７８．９％ | ７１．０％ |
| 44　筋道を立てて、ものごとを考えることができる。 | | | ７１．８％ | ６８．０％ |
|  | 観点・領域名 | 学力調査の分析　○成果　▲課題 | | | | |
| 国語 | 話す力・聞く力 | ○全国平均正答率を5.1ポイント上回り、（ 加藤さんの意見の内容を選ぶ ）設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を5.1ポイント下回り、（ 話し合いの続きの前提となる発言の共通点を選ぶ ）設問に課題がある。 | | | | |
| 書く力 | ○全国平均正答率を0.1ポイント上回り、（ 文章中の空欄に入る言葉を書き抜く ）設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を16.5ポイント下回り、（ 原稿の構成について正しく説明したものを選ぶ ）設問に課題がある。 | | | | |
| 読む力 | ○全国平均正答率を4.9ポイント上回り、（ 文章の内容について、正しい説明を選ぶ ）設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を13.4ポイント下回り、（ 文章の内容からわかることを選ぶ ）設問に課題がある。 | | | | |
| 言語についての知識・理解・技能 | ○全国平均正答率を5.5ポイント上回り、（ 文を文節に分ける ）設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を14.2ポイント下回り、（ 漢字の書き（高いビルをきづく。）設問に課題がある。 | | | | |
| 数学 | 数と式 | ○全国平均正答率を4.7ポイント上回り、大小関係を答える設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を9.9  ポイント下回り、文字式を計算する設問に課題がある。 | | | | |
| 図形 | ○全国平均正答率を5.3ポイント上回り、回転体の体積を答える設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を2.7ポイント下回り、ねじれの位置にある辺を答える設問に課題がある。 | | | | |
| 関数 | ○全国平均正答率を0.9ポイント上回り、法則から個数を答える設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を6.9ポイント下回り、反比例のグラフから座標を答える設問に課題がある。 | | | | |
| 資料の活用 | ○全国平均正答率を11.6ポイント上回り、代表値を答える設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を6.5ポイント下回り、ヒストグラムをかく設問に課題がある。 | | | | |
| 英語 | 聞くこと | ○全国平均正答率を15.6ポイント上回り、「牛乳」と「コーヒー」と「土曜日」を聞き取る設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を1.5ポイント下回り、「Aには何が入るか」を聞き取る設問に課題がある。 | | | | |
| 読むこと | ○全国平均正答率を14.2ポイント上回り英文を読み、Theyが表すものを選ぶ設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を6.0ポイント下回り英文を読み、質問に対して英文で答える設問に課題がある。 | | | | |
| 書くこと | ○全国平均正答率を16.1ポイント上回り、Whoseで始まる疑問文を正しい語順で表す設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を6.0ポイント下回り英文を読み、質問に対して英文で答える設問に課題がある。 | | | | |
| ２　生徒の実態 | | | | ３　生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | | |
| 【様式２に記載】 | | | | 【様式２に記載】 | | |
| ４　ミライシードとの連携機能を活用した取組 | | | | | | |
| 個別ドリルの実施状況 | | | 令和５年８月末時点で完了している生徒　　81．5％（62人／76人中） | | | |
| 確認テストの実施状況 | | | 令和５年８月末時点で完了している生徒　　72．3％（55人／76人中） | | | |
|  | | |  | | | |

様式２

令和５年度　学授業改善推進プラン（中学校・教科担任用）

第三中学校　　第２学年

|  |  |
| --- | --- |
| 国語科 | 教科担任　　湯浅　愛 |
| 生徒の実態 | ・授業に取り組む態度が積極的で、発言や挙手も多い。  ・話し合いの場で課題に対し、皆で解決しようとする姿勢はあるが、自分の考えを文章にしたり、他者に分かりやすく説明したりすることが苦手な生徒が多い。  ・聞き手や読み手が納得できるような、論理的な説明が不足している。  ・特定の分野に困り感を抱えている生徒がいる。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・意見交流や合意形成を行う場を積極的に設け、事前に論理的な説明の例示を行い、実践することでその力を養う。  ・学習支援ソフトや大型ディスプレイを活用し、意見の交流・集約、情報の収集・整理などを生徒自身で行えるようにしていきたい。 |
| 社会科 | 教科担任　　河野　伸二郎 |
| 生徒の実態 | ・基礎が定着しにくい生徒もいる。  ・文章で説明することに苦手意識を持っている生徒が多い。  ・コロナウイルスの影響などもあり、生活体験が不足しているため、学習内容と実生活が結びついていない生徒が多い。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・小テストで確認する機会を設ける。  ・学習のまとめの際に、社会的事象の特色や自分の考えを記入し、他者に説明させる時間を設ける。また、習熟度に応じて、まとめる方法を制限することで、表現力を高めていく。  ・導入時に、ICT機器などを活用し、視覚的に節の探求課題や学習課題に疑問をもたせるように工夫する。 |
| 数学科 | 教科担任　　志村　聡　　関　　隆史 |
| 生徒の実態 | 意欲的で真面目に授業に取り組んでいる生徒が多い。しかし、基礎的・基本的な計算技能（特に正負の数、文字式、方程式）を苦手にしている生徒が散見される。また、不等式の内容を説明したりやデータの中の特定の値について、根拠を示して説明する問題いわゆる記述式の設問を苦手にしている生徒が一定数いる。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | 間違った所を繰り返し解き直す必要があるので、授業後に宿題を出して既習内容を振り返れるようにしていく。また、授業の中で成り立つ理由を説明や答えを出した過程を説明する機会を意識的につくっていく。さらに長期休業中に学習教室を開いて生徒の疑問を解決する機会を設ける。 |

第三中学校　　第２学年

|  |  |
| --- | --- |
| 理科 | 教科担任　　野本　洋祐 |
| 生徒の実態 | 実験を積極的に行う生徒が多い。  生徒自身が理解しできたことを他者に説明する練習を多くする必要がある。  映像教材を見せると関心をもつことが多い。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | 問題演習の時間が少ないため、授業の時間で毎時プリントを配り演習を行うなど生徒の理解を確認できる方法を取り入れたい。  授業中、生徒が理解できたことを相手に説明する機会を増やす。授業の内容や問題の解き方を生徒自身が説明し、説明力を高める時間をとる。 |
| 音楽科 | 教科担任　　田中　悦子 |
| 生徒の実態 | ・グループ学習では、取り組みに差がある。基本的な学習でも協力しない生徒がいる。  ・発言はきまった生徒がすることが多い。  ・授業の目標を達成しようとする意識が低い。  ・体の成長に伴い、声の音色がそろってきた。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・授業の目標はより具体的に掲げ、意識的に触れていく。  ・リーダーの存在が薄いので、グループ学習の際は、リーダー、サブリーダー等の役割を把握し、円滑なグループ学習とする。 |
| 美術科 | 教科担任　　大倉　知恵 |
| 生徒の実態 | ・積極的に題材に取り組む姿勢がある。  ・お互いにアドバイスをすることが出来る。  ・自分の表現したいイメージについて、考えを練っていくことが足りない。  ・じっくりと考えて作品を仕上げることについて、個人差がある。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・お互いにアドバイスをすることは継続し、どのように自分の作品に生かしていくか考えを深めさせる。  ・進行状況を見ながら、もう一度作品について考えさせ、色々と試しながらより良くしようとする姿勢を育てる。 |

第三中学校　　第２学年

|  |  |
| --- | --- |
| 保健体育科 | 教科担任　　黒栁　真吾 |
| 生徒の実態 | ・授業内では、積極的に発言がする生徒が多い。  ・運動に対する苦手意識をもつ生徒もおり、体を動かすことに於いて消極的になってしま  うことがある。  ・苦手なことに一生懸命に取り組もうとする姿勢も見受けられるようになってきており、その意欲が技能の習得につながっているところもある。  ・分からないこともそのままにせず、質問したりすることが増えてきている。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、学習意欲を高めるようにする。  ・体育分野、保健分野ともに、授業内に考察する時間、自分の意見をまとめる時間、発表させ考えを共有する時間を設けるようにする。  ・グループやチームのリーダーを中心に自主的・主体的に学びに向かうことができるようにする。 |
| 技術科 | 教科担任　　久保田　翔子 |
| 生徒の実態 | ・非常に積極的に取り組む。とくに製作作業においては、与えられた資料等を活用し、自分なりに思考を重ねたり、他者と協働したりして、楽しそうに取り組んでいる。  ・集中してインプットすることができるが、それらの情報や経験を活用して見通しをもって作業を行うことを苦手とする生徒が多い。  ・アウトプットにおいては課題がみられる。作業時や、講義を受けた後のレポート、作業を終えてのレポートなどで、学習したことを発揮・まとめることを苦手とする生徒が多い。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・学習内容をイメージでとらえられるように、写真や動画での説明を主とする。  ・学習用iPadを活用し、カラー写真資料や動画配付を行い、生徒が自分の手元で何度でも既習事項を確認できるようにする。  ・グループ編成を工夫する。他者と協働しながら作業を進められるように、製作品が同じ者同士でグループを編成する。  ・毎時間の振り返りや単元ごとのレポート作成の時間を十分に確保する。  ・達成感や充実感をもたせるため、明確で全員が達成できるような目標を設定する。 |
| 家庭科 | 教科担任　　豊田　映子 |
| 生徒の実態 | ・各自積極的に授業に取り組んでいる。  ・学習している内容に疑問を感じたり、共感したりという感情の動きをその場で言葉に出すことがよくある。これに関しては、授業に集中していなければ言えない事と肯定的に捉えている。ただこれが私語の多さにつながっていくことが気になる点ではある。  ・指示には、素早く反応し、素直に受け入れる姿勢が出来ている。  ・穏やかな雰囲気で授業を進めることができる。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | **・**知識の学習では自分の日常生活そのものが家庭科の学習であることを理解し、興味を持って学習する意欲につなげられるよう、指導内容を工夫する。  ・作成プリントは生徒の発達段階に即した内容、言葉使い、量等を精査する。  ・作品製作においては、生徒の創造力、想像力、思考力を発展させられるようにする。その中で、物事を進めていく上での丁寧な行動の大切さを指導の重点にする。 |

第三中学校　　第２学年

|  |  |
| --- | --- |
| 英語科 | 教科担任　　木村　紗也佳　　小林　真央 |
| 生徒の実態 | ［聞くこと］英文を聞いて内容を理解できる生徒がほとんどである。  ［読むこと］生徒の多くは資料の読み取りができているが、一部の生徒は語彙力が低く、既習単語でも意味を調べないと英文を読むことができていない。  ［話すこと（やり取り）］ペアでの言語活動に意欲的に取り組むことができる。  ［話すこと（発表）］PowerPoint等の資料を用いて調べた内容を話すことはできているが、一部の生徒は原稿をずっと見た状態であり発表態度の面で課題が残っている。  ［書くこと］語彙力が低く、伝えたいことを正しく書くことができていない生徒が多い。また、主語と動詞を含めた完全形の英文で書くことに課題がある。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ［聞くこと］授業の進度に合わせて副教材を活用する。教科書の内容動画を字幕なしで見て、ワークシートにメモとしてまとめることで聞く力を高める。  ［読むこと］新出単語や本文の音読練習を繰り返し行う。  ［話すこと（やり取り）］ペアワークを多く取り入れて英語の発話量を増やす。  ［話すこと（発表）］自分の考えを発表するパフォーマンステストを、クラスメイトの前やALTと一対一で実施する。  ［書くこと］毎回授業の終わりに書く活動を行い、その内容をALTに添削してもらうことで自分の間違いに気づき、書く力を高める。 |